

# 週刊新潮

11月20日号  
400円



44



と、まるで他人事。演技後はというと、

「バックヤードに運ばれて医療用ベッドに寝かされ、母親やコーチが見守る中、演技前に応急治療をしてく

れたアメリカの白人女医に、顎を7針縫い、頭部3カ所を医療用ホチキスで止めてもらいました。元氣そうでした

が、衝突で打ったお腹が痛く、演技中は呼吸がで

き辛かったです」と話して「先ず辛かったです」と話して

「先ず辛かったです」と話して「先ず辛かったです」と話して

# 「ボクシングのほう更安全」

テレビ中継で羽生クンの執念を讃えた解説者たちにも批判の矛先が向けられた。評論家の大宅映子さんは、

「元プロスケイターの佐野稔さんが、フィギュアスケ

それでも、精密検査で脳震盪と診断されなかったから、結果オーライかと思えば、そうでもないという。

「脳震盪は軽度であれば2、3時間で治ってしまうので、時間がたつてからの検査ではわからない。激突直後に脳震盪を起こしていた可能性は否定できません」

と語るのは、先に脳震盪のチェック項目について語った関係者。やはり、

「脳震盪を起こしたら、一晩経過して、吐き気がないこと、脳波やCT、MRIのような検査で異常がないことを確かめてから現場に復帰させるのが一般的」

（脳神経外科の工藤千秋氏）  
という専門医の判断に従うほかならずである。

「首と頭を強く打っているんですよ。なんですぐにドクターストップかけないんです。ボクシングだって箱根駅伝だって、危険を感じたらやめますでしょ？羽生クンが頑張ったのは絶

が、必要だと痛感したそうです。「こうした事故が再発しないように、選手の安全管理をしっかりと行なうことです。今、最終練習は6人でやっています。4人にする方法もある。国際的には、GPのような国際大会には国際スケート連盟が指定したドクターを常駐させる必要があるかもしれないし、国内的には、トップクラスの大会には日本のドクターを必ず帯同させることも考えるべきでしょう。フィギュアの世界は、脳震盪が起これという概念が身近ではなかったたので、遅れているのかもしれない。もっと安全性について議論していく必要がありますね」

実際、遅れているのだから。尾木ママこと教育評論家の尾木直樹氏も、

「首と頭を強く打っているんですよ。なんですぐにドクターストップかけないんです。ボクシングだって、危険を感じたらやめますでしょ？羽生クンが頑張ったのは絶

と話す、矢面に立たさ

「こうした事故が再発しないように、選手の安全管理をしっかりと行なうことです。今、最終練習は6人でやっています。4人にする方法もある。国際的には、GPのような国際大会には国際スケート連盟が指定したドクターを常駐させる必要があるかもしれないし、国内的には、トップクラスの大会には日本のドクターを必ず帯同させることも考えるべきでしょう。フィギュアの世界は、脳震盪が起これという概念が身近ではなかったたので、遅れているのかもしれない。もっと安全性について議論していく必要がありますね」

実際、遅れているのだから。尾木ママこと教育評論家の尾木直樹氏も、

「首と頭を強く打っているんですよ。なんですぐにドクターストップかけないんです。ボクシングだって、危険を感じたらやめますでしょ？羽生クンが頑張ったのは絶

が、必要だと痛感したそうです。「こうした事故が再発しないように、選手の安全管理をしっかりと行なうことです。今、最終練習は6人でやっています。4人にする方法もある。国際的には、GPのような国際大会には国際スケート連盟が指定したドクターを常駐させる必要があるかもしれないし、国内的には、トップクラスの大会には日本のドクターを必ず帯同させることも考えるべきでしょう。フィギュアの世界は、脳震盪が起これという概念が身近ではなかったたので、遅れているのかもしれない。もっと安全性について議論していく必要がありますね」

実際、遅れているのだから。尾木ママこと教育評論家の尾木直樹氏も、

「首と頭を強く打っているんですよ。なんですぐにドクターストップかけないんです。ボクシングだって、危険を感じたらやめますでしょ？羽生クンが頑張ったのは絶

が、必要だと痛感したそうです。「こうした事故が再発しないように、選手の安全管理をしっかりと行なうことです。今、最終練習は6人でやっています。4人にする方法もある。国際的には、GPのような国際大会には国際スケート連盟が指定したドクターを常駐させる必要があるかもしれないし、国内的には、トップクラスの大会には日本のドクターを必ず帯同させることも考えるべきでしょう。フィギュアの世界は、脳震盪が起これという概念が身近ではなかったたので、遅れているのかもしれない。もっと安全性について議論していく必要がありますね」

実際、遅れているのだから。尾木ママこと教育評論家の尾木直樹氏も、

「首と頭を強く打っているんですよ。なんですぐにドクターストップかけないんです。ボクシングだって、危険を感じたらやめますでしょ？羽生クンが頑張ったのは絶

と話す、矢面に立たさ

「僕の場合、24歳のときのむち打ち症が加齢で急速に悪化して、8月に頸椎の手術を受けたんです。そんなのを受けにくるのはお年寄りばかりだと思っています。たけど、入院したらそうじゃないのよ。すぐくスポーツマンが多いの。ラグビーとかサッカーとか柔道とかだから羽生クンの事故には本当にゾツとしました。安全に競技できる環境が欠落しているの、羽生クンを美談仕立ての英雄にしちゃだめ。あんなに美しい競技なのに、ボクシングのほう

が安全なんだしたら、見る側はハラハラして競技どころじゃなくなっちゃう」

「感動した」と言う人もいます。私には、

「羽生選手は五輪金メダリストで、昨シーズンの世界王者。まだ19歳だから次もその次も五輪のチャンスがある。そんな日本の宝のような選手に、無茶をさせてはいけません。万が一のことがあったら、誰が責任を取れるのですか」

可能か否か、羽生クンは今月末のNHK杯への出場を望んでいるという。関係者には、それまでに意識を改めてもらうしかない。

「感動した」と言う人もいます。私には、

「羽生選手は五輪金メダリストで、昨シーズンの世界王者。まだ19歳だから次もその次も五輪のチャンスがある。そんな日本の宝のような選手に、無茶をさせてはいけません。万が一のことがあったら、誰が責任を取れるのですか」

可能か否か、羽生クンは今月末のNHK杯への出場を望んでいるという。関係者には、それまでに意識を改めてもらうしかない。

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、

「感動した」と言う人もいます。私には、